全　国　に　展　開　し　た　千　葉　氏

日時　令和八年十一月七日（土）十五時～
場所　末日聖徒イエス・キリスト教会渋谷ワード
講師　鈴木　佐　（千葉氏研究家）

一　はじめに　　千葉氏の研究から地域づくりへ　　【資料１～３】





右上　千葉孫兵衛家の火　右上　国名勝・東氏庭園跡
※千葉家の火を千葉市に移し、慰霊祭で使用　（岐阜県郡上市）

・幼少期から千葉氏の東遷と西遷について興味をもち、岩手県一関市、宮城県亘理町・涌谷町、福島県相馬地域･岐阜県郡上郡大和町、佐賀県小城町を訪問し交流を続け、史料と史跡情報の採譜を行っている。
・H9 千葉氏フォーラムを立ち上げ。
　H28「千葉氏サミット」へ発展
・H12　建長寺の歴史にシフト。

二　千葉氏について（その一　系図）　『山形大中条系図』『千葉大系図』等を中心に集成

桓武天皇――葛原親王――高見王――高望王――良文――忠頼――忠常――常将――常長

- 常兼――常重（妻豊田政幹娘）
  - 常胤（妻秩父重弘娘）
    - 千葉胤政
      - 師常（相馬）　【①陸奥相馬氏】
      - 胤盛（武石）　【②陸奥武石（亘理）氏】
      - 胤信（大須賀）　【③陸奥大須賀氏　④三河大須賀氏】
      - 胤通（国分）　【⑤陸奥国分氏？】
      - 胤頼（東）　【⑥美濃東氏】
      - 日胤
      - 娘（葛西清重妻）　【葛西氏㈠】）**※群書系図集「笠井氏系図」**
      - 娘（工藤祐経妻）　【伊東氏㈡】）**※「日向纂記」「寛政譜」「寛永譜」**
      - 娘（大掾直幹妻）　【真壁氏㈢】）**※「千葉大系図」「桜井氏系図」**
    - 椎名胤光　【越中椎名氏⑨】

【下総千葉氏】

- 成胤
  - 胤綱
    - 娘（結城朝宗後室㈣）　**※「結城市史　結城系図」**
    - 娘（金子家繁室㈤）
  - 時胤
    - ・妻は北条時房妻
    - 泰胤
      - 胤英
      - 女（金沢顕時妻）
      - 女（千葉介頼胤妻）

【上総千葉氏⑦】　**※入間市　旧瑞泉院位牌**

- 常秀――秀胤
  - 時秀
  - 政秀
  - 泰秀

【肥前千葉氏⑧】

- 頼胤――宗胤
  - 胤貞
    - 娘（宇都宮公綱室）**※「下野国誌」**
  - 【下総千葉氏】
  - 胤宗――貞胤――氏胤――満胤（下総千葉氏・原氏）…

三　千葉氏について（その二　概要）　（典拠『千葉一族の歴史』）

下総千葉氏　平安期以来の桓武平氏の一族　下総国・上総国を支配　１５９０年所領没収

その間、東北地方から九州佐賀県や鹿児島県まで勢力を伸ばした。――→**資料３**

【鎌倉期】上総国と下総国を領し、上総千葉氏と下総千葉氏に分流。
上総千葉氏　秀胤は幕府評定衆。宝治合戦で滅亡
下総千葉氏　泰胤、北条時頼や金沢顕時と姻戚となり、一族建て直し

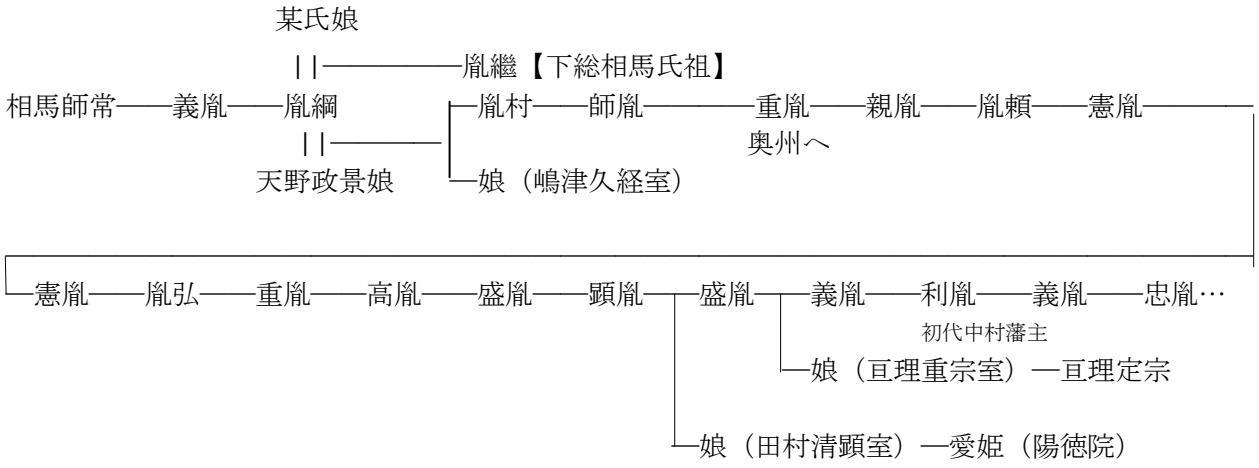
【鎌倉末期～南北朝】
元寇により　千葉頼胤は肥前国出陣、陣歿。長男・宗胤大隅守として九州。
弟の千葉胤宗が下総の所領を経営。
宗胤の子・胤貞と胤宗の子貞胤が家督争い、そのまま南北朝時代と突入。

【室町】　千葉胤貞は肥前国　貞胤は下総国　下総千葉氏は貞胤流が継承。
下総千葉氏　鎌倉府侍所所司（長官）
永享の乱～享徳の乱　鎌倉公方・足利氏と関東管領・上杉氏の争乱に巻き込まれ、公方方の馬加康胤により千葉胤直が自害。（下総千葉氏滅亡）
美濃東氏の「東常縁」が遠征し、馬加康胤父子も自害し、胤直の甥一族を擁立（武蔵千葉氏）
鎌倉公方方は原氏を中心に庶家の岩橋千葉氏を擁立（佐倉千葉氏）

【戦国】　佐倉城に本拠。小田原北条氏の影響。
千葉邦胤の娘婿として北条氏の五男・千葉直重が継承。
１５９０年　小田原合戦により滅亡。

①陸奥相馬氏

（典拠：『寛政重修理諸家譜（以下「寛政譜」）』・『（以下「寛永譜」）』・『群書系図部集　相馬系図』『奥相誌』『千葉大系図』）





鎌倉末期に下総国から陸奥行方郡へ　以後、南北朝期で北朝方として活躍する。戦国期には伊達政宗と抗争を重ね、豊臣秀吉から所領安堵。江戸時代は、相馬中村藩６万石となり。明治維新まで所領をまもる。相馬野馬追が下総から勧請した妙見の祭り。

←相馬義胤（外天公）墓（福島県南相馬市　同慶寺）
相馬昌胤像（福島県相馬市　興仁寺蔵）→



②陸奥武石氏（亘理氏→涌谷伊達氏）　　　（典拠　『涌谷町史所収　系図』『伊達藩家臣録』など）

武石胤盛――胤重――胤氏――宗胤――胤繼――高廣――廣胤――行胤――重胤――胤茂――重元―
　　　　　　　　　　　　陸奥亘理へ　　　　　　「亘理姓」

―元胤――宗元――宗隆――娘（伊達稙宗室）――亘理綱宗
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　└亘理元宗――重宗（陸奥涌谷邑主）
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　||――定宗――宗重――宗元
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　相馬盛胤娘　・伊達安芸



鎌倉末期に下総から陸奥亘理郡へ下向。「亘理氏」を名乗る。南北朝では、南朝方となる。戦国期に伊達稙宗との縁組し、伊達家の旗下。亘理元宗・重宗・定宗の三代は伊達政宗の重臣。江戸時代に入り、伊達政宗から涌谷２万３千石の邑主となる。寛文事件（伊達騒動）で活躍する伊達安芸宗重は、亘理定宗の子。

←伊達安芸宗重像（宮城県涌谷町　見龍廟）

③陸奥大須賀氏



陸奥国好島庄預所職　同庄は東庄・西庄に別れ、東庄を領す。後に岩城氏に従属していく。

大須賀氏の末裔は岩城に土着する一族と、佐竹本藩、岩城亀田藩に仕える一族に別れる。特に岩城貞隆・吉隆に仕え、関ケ原の合戦後に失料し、浅草浪人中も従った大須賀織部もおり、後に亀田藩士となっていく。亀田藩士には「四倉左近」や「新妻姓」がいるが同族と考えられる。

←陸奥大須賀氏が勧請した妙見像（福島県いわき市四倉妙見堂）

大須賀胤信――通信――――胤繼
　　　　　　　―胤村　　　―胤氏――――朝氏（下総大須賀）
　　　　　　　―重信（※１）―師氏
　　　　　　　―範胤　　　―時通
　　　　　　　―行重　　　―信康――――宗常・・・【陸奥大須賀氏】系図不詳
　　　　　　　―女　　　　―爲信　　　※２
　　　　　　　└常律　　　└景氏　　　　　**（典拠『房総叢書「千葉大系図」「大須賀系図」』）**

④三河大須賀氏　　徳川二十四将の一人・大須賀康高

※２　（典拠**『房総叢書所収「大須賀系図」』**）

信康・・・高康――宗常――正綱――康高――忠政

※３　（典拠**『君津市史所収「大須賀系譜（抄）」』**）

大須賀重信――胤氏――朝氏――胤高――朝胤――高道――朝重――胤重――高門――康高―

―忠吉（忠政）――胤高――忠次（榊原）※榊原家を継承したため、大須賀氏断絶
　上総久留里藩主　　　　播磨姫路城主
　遠州横須賀藩主

※「五郎左衞門尉平康高は、千葉介常胤が四男大須賀の四郎胤信が後胤也」（典拠**『藩翰譜』**）

⑤陸奥國分氏　　？

陸奥千代城主（宮城県仙台市）に拠った国分氏は千葉氏という伝承もあるが、留守氏の流れという説が主流になりつつあるため割愛。但し江戸時代、仙台藩儒・佐久間洞巌が作成した「平姓国分氏系図」については今後研究課題である。

⑥美濃東氏　　**（典拠　『寛政譜』『寛永譜』『郡上慈恩寺所蔵東・遠藤系図』）**

東（木内）胤頼――重胤――胤行――行氏――時常――氏村――常顕――師氏――氏數――常縁――
　　美濃郡上へ
―元胤――常慶――常堯
　　└―娘（友順尼）
　　||――――遠藤慶隆――慶勝――慶利――常友――常春――常久――胤親
遠藤盛数　　**美濃郡上八幡藩初代**　　**近江三上藩初代**
　　└―遠藤慶胤（土佐藩遠藤氏祖）
　　└―娘（山内一豊妻）



東胤行が承久合戦により美濃山田庄を加領。その後宝治合戦により、山田庄に下向。美濃東氏として、郡上領を統治、将軍奉公衆となる。
その中でも、東常縁は、古今和歌集の研究を重ね、古今伝授の祖となる。後に支族・遠藤盛数により東氏に代わり、郡上を支配。
遠藤慶隆のときに関ケ原の合戦に東軍に属し、２万７千石の八幡城主となる。妹は山内一豊妻・見性院と伝う。
後に遠藤氏６代が断絶するが名跡を許され、将軍綱吉の側室瑞春院の甥・白須胤親を、後継として、近江三上藩主１万石の大名として取り立て、明治維新を迎える。

←東常縁像（岐阜県郡上市　乗性寺蔵）



山内一豊夫妻の像と郡上八幡城跡（岐阜県郡上市八幡町）→

⑧肥前千葉氏　千葉常胤が戦功により肥前国晴氣庄を与えられる。
（鍋島文庫本　千葉氏系図、諫早氏系図、神代氏系図）

千葉頼胤――宗胤――胤貞――胤泰――胤基――胤鎮――元胤――教胤
　　└―胤氏――徳島義胤…（佐賀藩　徳島氏）
└―胤紹――胤朝――（少弐）胤資――胤治
　　└―胤繁――娘（龍造寺家晴室）―諫早直孝…（諫早２万石）
　　└―胤勝――胤連―＝彦法師丸（鍋島直茂）
　　└―千葉胤信――常貞…（佐賀藩　千葉頼母）
└―胤盛――興常――喜胤――胤頼――胤誠（胤正）
　　└―娘





元寇により、頼胤が肥前国に出陣し、陣歿。宗胤は「従五位下大隅守」として、大隅国へ。
小城では、蘭渓道隆の法嗣・若訥宏弁を招いて、臨済宗「圓通寺」を開基。
子息・胤貞は、猶子・日祐に日蓮宗「光勝寺」を開基。胤貞は、貞胤の抗争をしていたが、千田庄の主だった一族（井戸山・次浦・岩部・飯笹・東など）を引き連れ小城に定着。元胤の時代は、朝鮮国と交易を行い、九州の中でも栄えた都市として、認識される。後に千葉氏は祇園城千葉と晴気城千葉に分かれ、抗争し衰退。祇園千葉は、神代氏を頼り、断絶。晴気千葉は、鍋島藩重臣として、残る。

写真（左　千葉胤貞の山車　　右　千葉胤貞木像＝光勝寺蔵＝）

⑨　越中椎名氏　　（典拠：富山県史編さん委員・久保尚文氏から教示、『八日市場市史』）

椎名胤光―野手胤知・・・・頼胤・・・長胤・・・順胤――慶胤――康胤――重胤
　　└長常　├康次
　　└長尾小四郎景直





椎名胤光の末裔と伝承　新補地頭として入部？畠山氏に従って入部？椎名氏の越中来訪時期は？　越中守護・畠山氏の被官として入部。後に戦国大名化。椎名康胤のときに上杉謙信と結ぶ。後に武田信玄と提携したため、松倉城を落とされ、越中西部を転戦、陣歿。

（左　松倉城址　右　椎名氏守本尊＝魚津市博物館保管　富山県魚津市）　養子・小四郎は御館の乱で没落。

四　系図・系譜について、全国を踏査ながら気づいたこと！

【系図の活用の仕方】

・系図は、勝者側に意図的に作成されたものが多い。多種多様な系図をみること。中央の系図・系譜、地方に残る系図・系譜。
・一次・二次資料や寺社史料などの突合などが必要。
・女子の嫁ぎ先や正妻・側室がどこからきているのかも調査する必要あり。

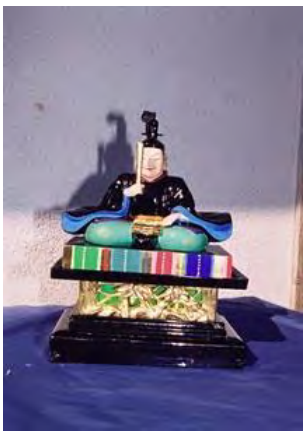
【「千葉氏」観と研究者たち】

戦前～平成期まで「千葉氏を顕彰」していた風潮があり。
・大正１５年６月１日に「千葉市開府８００年記念式典」が挙行。千葉市主催の神前奉告祭が千葉神社（妙見）で行われ、元田肇知事が参拝。終わって武徳殿で祝賀会、つづいて館跡の猪鼻台において園遊会がひらかれ、朝野の名士約二千人に達した。（「千葉市史」）
・千葉宗家については、「鏑木本千葉大系図」の鳥越神社。鏑木氏が正統として認識されていた。
・満州事変以降、「皇国史観」の考え方が強くなると、「南朝から北朝に味方した千葉貞胤」を批判する風潮に変わっていき、「逆賊扱い」になる。
・戦後　昭和期　　奥山市松（松濤）・・・・「千葉氏の研究」「房総叢書」
　　小笠原長和　　川村　優
　　平成～令和　福田豊彦／野口　実／岡田清一

【上総氏と千葉氏】

科学的な検証作業は必要。昭和までの千葉氏観「千葉氏は本家で上総氏は分家」は偶像である。「吾妻鏡」だけでなく「平家物語（延慶本）」「源平闘諍録」などを読みながら、系図をみていく。「上総氏は両総平氏の族長」。勝者の千葉氏による系図や伝承の改竄が常に行われている。

平常長――常兼――千葉常重――**千葉常胤**
　　├常房（鴨根）
　　├大須賀常継
　　└上総常晴――常澄――常景（伊北）――常仲
　　　　└常明――**胤明――時胤**
　　　　├頼次（金田）
　　　　├常茂（印東）
　　　　├常成（匝瑳）
　　　　├秀常（天羽）・・・・・・・・・・※阿波天羽氏
　　　　├**廣常（上総）――良常**
　　　　└娘（小笠原長清室）
　　　　├常清（相馬）・・・・・・・・・・※阿波安楽寺、阿波角田氏
　　　　└佐瀬禅師（佐瀬）・・・・・・　※会津佐瀬氏



←　上総廣常像（千葉県いすみ市）

（１）徳島県を訪問　「上総一族の末裔たちは“千葉一族”」を称す。

上総介廣常の伝承は、信濃国や阿波国に多いことを見つけ調査中。
廣常息女が「小笠原長清の室」（典拠『吾妻鏡』）
その関係で、信濃国や阿波国に廣常の一族が逃れる。阿波国では、相馬常清の末裔　天羽直胤の末裔などが移住伝承あり。
相馬氏末裔は「千葉」を名乗り、天羽（あもう）一族は「千葉一族」を伝承。
→『上総氏の「千葉氏化」』　諱を「常」から「胤」

（２）福島県相馬地方と東京都青梅市を訪問　「系図上から祖先を英雄視するために祖先を変更」

相馬氏系統の末裔は、「平良文末裔」よりも「平将門末裔」を強く主張。国王神社を勧請

【江戸時代　相馬中村藩主・相馬昌胤　祖先として「平良文」を意識】
相馬昌胤　正室は水戸光圀の姪を娶り、外様大名ながらも側用人に列す。
江戸城で下総国五郷内村　樹林寺の夕顔観音（平良文の変現である像）の出開帳が行われる。
相馬領内の松川浦に「夕顔観音」を勧請。
旗本の相馬小次郎信胤も自ら樹林寺（夕顔観音）参拝

（３）佐賀県小城町と佐賀県立図書館「鍋島文庫」訪問　房総叢書「神代本千葉系図」の巻末に誤り

千葉氏の血筋を伝えようと意図的に歪曲したか。→『鍋島文庫本　神代家系図』『葉隠』

『房総叢書所収　神代本千葉系図』から抜粋

胤泰――胤基――胤鎮――元胤――教胤
胤繼

（太宰少弐教頼ノ子）
胤紹――胤朝＝＝胤資――胤治―胤繁――胤勝――胤連＝＝信昌　少弐教頼ノ庶子鍋島清直ノ曽孫
後本姓二復シ鍋島直茂ト云フ。

胤将――興常――喜胤――胤頼――胤誠
胤盛

娘
‖――――長良＝＝＝犬法師
神代勝利

鍋島信昌ノ
兄弟ノ子



此系圖ハ、肥前国小城郡晴気ノ城主千葉介胤頼ノ相伝ノ軸物也。永禄元年胤頼討死、其子胤誠、同国北山内ノ領主神代大和守勝利ヲ頼ミ、此領二寓居ス。老後子孫ナキ二依リ、家ノ重宝系図ヲ始メ悉ク神代家に譲リ渡セシモノ也。

『鍋島文庫本　神代氏系譜』

神代勝利―――長良―――娘
‖――――**常親――常利――常宣**――直長
家良
・小川信貴の子
・川久保鍋島氏

※「葉隠」……武士道の鑑　山本常朝著　表向きは「武士道の指南書」裏の事情は「鍋島藩の歴史」隠し。本来の目的は「家臣団系譜」を作成する予定であった。「萩藩閥閲録」「伊達藩家臣録」の鍋島家でも検討。
ところが…鍋島氏は龍造寺氏を平和的に政権移行（所謂「乗っ取り」）。鍋島家は龍造寺家の一家臣であったため古文書類を提出させたら、「鍋島家と同列に記載している」古文書ばかりになり、急遽、家臣の家の伝承をまとめ、「葉隠」として世に広まる。

（４）栃木県真岡市水戸部・君島、岩手県花巻市・盛岡市、青森県十和田市を訪ねて

新渡戸稲造一族の系譜から、「下総千葉氏」による「上総千葉氏」の系図が書き換えられた？

上総千葉氏の成立　下総千葉氏より優位　・・・・上総千葉氏は、千葉常胤の嫡流ではないか。
・千葉（境）常秀　千葉常胤の孫で「兵衛尉」に任官　『吾妻鏡』
「上総国司　『明月記』
秀胤　三浦義村の娘婿　鎌倉幕府評定衆
領地は薩摩国島津荘一帯　『薩摩国大田文』

【宝治合戦】北条氏と三浦氏の合戦　上総千葉氏はじめ、千葉一族の中からも三浦方に参戦。
宝治合戦で敗戦により、その一族が陸奥国へ逃れる。
秋田県小阿仁村「武石姓」「相馬姓」　青森県　岩手県　宮城県「千葉姓」

その中でも「南部藩参考諸系譜　新渡戸氏系図」「群書類従本　君島系図」
新渡戸氏は、境常秀の祖先とする伝承の系図を作成。「真向月星」を称す。

千葉常胤の三男・常秀は下野国新渡戸郷・青谷郷を領す。
※下野国水戸部（真岡市水戸部）に逃れた可能性あり。水戸部・青谷・君島は小貝川沿川で関係深い。
君島氏は大須賀胤信の八男・成毛範胤。寶治合戦で逐電　下野国内　君島郷に居し、君島嗣胤を称す。

五　千葉氏と婚姻を重ねた一族の系譜から

㈠葛西氏　葛西清重　頼朝に仕え、奥州総奉行。平泉を拠点。
陸奥国磐井郡を中心に勢力拡大。千葉氏と姻戚関係をつなぐ。

㈡伊東氏　伊豆御家人・工藤祐経が祖。常胤の娘が嫁ぎ、伊東祐時が生誕。
日向国地頭職となり、西遷。戦国期に日向国主となるが嶋津氏に大敗。
失料するも、飫肥を中心に復活し、江戸時代に飫肥５万石領主へ
家紋は「月に九曜紋」



㈢真壁氏　常陸豪族大掾氏の一族。本家・多気大掾や東条・下妻が滅ぼされる中で、真壁氏は所領維持。
常陸佐竹氏に従属し、後に佐竹氏の秋田転封により出羽久保田へ。秋田藩家老を輩出。



※結城山川氏、宇都宮氏、相馬氏→天野氏・島津氏　東氏→土岐氏
海上氏→佐竹氏・小田氏

六　おわりに

『房総叢書所収「千葉大系図」（抜粋略系図）』

